

平成22（2010）年度
熊本大学大学院法曹養成研究科

第1次選抜（第1次募集）

（小論文試験問題）

試験時間 120分

頁・・・1～3

注意事項

1. 試験開始の合図のあるまで、問題用紙は開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、問題用紙（この表紙を含めて6枚）、解答用紙（5枚）、下書き用紙（5枚）が、揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて（5枚）に受験番号を記入してください。なお、氏名は記入しないでください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。解答用紙のホッチキスは外さないでください。
5. 配布された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

課題文を熟読して、設問に答えなさい。なお、この試験は論理的思考力、表現力などを評価するためのものであり、法的知識の有無を問うものではありません。

《課題文1》

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

《設例》

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：岡本裕一郎『異議あり！生命環境倫理学』ナカニシヤ出版、2002年)

問1 《設例》のデイヴィッドは、《課題文1》で展開された生命倫理の論理に従うと仮定すると、一人の生命よりも五人の生命を選択する可能性がある。この場合にデイヴィッドはどのような論理に拠っているのか、「ポジティブな義務」、「ネガティブな義務」、「殺すこと」、「死なせること」というキーワードを用いて説明しなさい。(200字以内)

問2 《設例》のデイヴィッドが功利主義の立場に立ち、一人の生命より五人の生命を選択した場合に、どのような批判が予測されるか、考察しなさい。(200字以内)

《課題文2》

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：鷲田小彌太『脳死論』三一書房、1988年。なお、(注)は出典の中にある記述を要約したものである。)

《課題文3》 臓器移植法の改正でA案が成立したことに関する新聞記事抜粋

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：2009年7月14日朝日新聞朝刊)

《課題文4》

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：中山研一『脳死移植立法のあり方』成文堂、1995年)

問3 《設例》におけるデイヴィッドをあなた自身に置き換えて、臓器を取り出す対象が脳死者とするならば、あなたはどのような選択をするだろうか、《課題文2》から《課題文4》までを参看して、論考しなさい。(1000字以内)